

翅に黒褐色の斑紋を多数散布する(図-2)。幼虫は初め淡黄色,老熟すると体長55mmになり,頭部は黒褐色,胸部は紫赤色。幼虫は枝や幼木の幹の中心付近に真直に孔道を掘り,これより直角に横に孔道を掘る。外部に開孔する孔道内で木屑を綴って蛹化する。蛹は羽化の前に体の過半分を樹皮外に乗り出す。

## 新刊紹介

◎東南アジアの熱帯多雨林世界 山田 勇 A5版 11+422pp. KK創元社  
(東南アジア研究叢書24) 1991.2.25刊 ¥9,270(税込)

熱帯多雨林は地球上で最も多様で複雑な生態系だとされているが,その熱帯多雨林に魅せられて,4半世紀にわたって研究に取り組んできた著者が,その間の調査結果を中心に整理編成した学術書である。その内容を目次に従ってみると,第1章「低湿地の植生景観」では,まずマングローブについて分布,帯状構造をもたらす要因,現存量,構成植物の形態,用途,研究の方向を述べたあと,淡水・泥炭湿地林の分布と環境,植生,開発の現状と問題点について述べる。第2章「ブルネイの熱帯多雨林」では,前出の低湿地林を除く主要な森林型の林相,樹種組成を記載したあと,主要樹種の開花・結実習性,生長様式を述べる。第3章「パングランゴ山地林(ジャワ島西部)の生態」では,本山地林の位置づけ,樹種組成と階層構造の高度変化,落葉落枝などの季節変化,本山地林における炭素循環について述べる。第4章「熱帯多雨林の遺伝資源保全」では,まず熱帯多雨林の問題点を人為的,自然的,生物学的要因に分けて論じ,保全への動きについて述べたあと,現地保全・現地外保全のあり方,問題点などを整理し,後者についてユーカリ,マツ類の事例を説明し,こんごの展望で結んでいる。最後の展望では,著者の長年の体験を中心に,遺伝資源保全を含めた熱帯林研究に関わる考え方を強調している。260を超える文献も参照している膨大な内容で,熱帯林に関心をもつものにとって見逃せない重要な参考書である。  
(浅川澄彦)